

新しい地震対策を考える専門家向けセミナー 〈セッション13 収震構造の設計法と課題〉

日時

2022年5月26日(木)

13:30 ~ 14:40

Zoom

参加費無料

今世紀に入り、毎年のように、従来の統計を数倍上回る豪雨、台風、地震、津波、洪水、土石流、火砕流等が発生し、多くの人命と財産が失われています。さらに、感染症、火山の噴火、そして、戦争の危機も現実化しています。建物、インフラ施設、都市に対して、新たに総合的な災害対策を講じない限り、被害はさらに大きく壊滅的なものになりかねないと考えられます。

新耐震基準は大地震に対しては、ひびが入って使えなくなってもよい、倒壊しなければよいという基準です。熊本地震では、耐震化率100%の熊本市周辺において、病院、避難所が使用できなくなったことによる災害関連死が直接死の4倍を超える事態となりました。7割以上のマンションが被害を受け、1年以上たっても補修工事ができないマンションも多数ありました。従来の数倍の地震動に対して安全性と使用継続性を確保する新しい方法が求められています。

本セミナーでは、新しい災害対策の一例として、しなやかな弾性材料を用いる補強技術SRFと、GPSを備えた高性能計測器を多数用いる診断技術(MTD)をご紹介します。本セッション13では、コンクリートと木材に対して鉄を用いて補強する耐震構造の限界を考え、これに対して、弾性材料を用いる収震構造を提案し、具体的な設計法と課題を検討します。老朽化と切迫する様々な危機に対して、どのようにして建物とインフラを守り、生活と事業を継続することができるか。将来に向けて、総合的な災害対策、新たな街と国の姿をお考えいただく機会となることを願っております。



講師 五十嵐 俊一

構造品質保証研究所株式会社
代表取締役社長

工学博士
日本建築学会会員
地盤工学会正会員
コンクリート工学協会正会員

オンラインセミナー
参加お申込み

当社ホームページの専用フォームよりお申込みください。
https://www.sqa.co.jp/opinion/online_seminar_form.html

お申込み用
QRコード



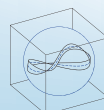
過去開催分
視聴ページ
QRコード



過去開催分は当社ホームページよりご視聴いただけます。
https://www.sqa.co.jp/opinion/seminar_application.html

お問合せ

構造品質保証研究所 セミナー事務局
TEL 04-7189-7621 E-mail seminar@sqa.co.jp



構造品質保証研究所